

■公共交通の課題

【公共交通空白地域が存在】

- ・余市町の公共交通は、幹線バス 5 路線と高速バス 4 路線が国道を運行するとともに、余市町内に起終点を持つ地域内バスとして余市協会病院線が運行しています。
- ・余市協会病院線は幹線バス路線等と一部重複しながら大川町及び黒川町を通り余市協会病院に連絡する路線バスです。
- ・なお、国道及び余市協会病院線沿線以外の地域は公共交通空白地域となっています。

【余市協会病院線は利用者ニーズに合ったものとする必要がある】

- ・余市協会病院線は 1 日 6 便の運行で 100 人前後の利用があり、また高齢者等の通院・治療等や買物目的の外出にはなくてはならない公共交通であると考えられます。
- ・運行時間帯は通院、買物等の利用目的に対応した 8 時台から 17 時台の運行で、通勤・通学利用に対応してはいません。
- ・今後は効率的な運行が可能な範囲で公共交通空白地域や潜在的な需要がある地域を取り込むことや、利用が少ない区間についてバス路線や運行方法を見直し、また輸送の対象となる年齢層や利用目的及び運行車両の小型化、並びに乗り降りしやすい車両を検討するなど、現在の利用者ニーズに合った町内公共交通としていく必要があります。

【公共交通の潜在的需要に対応していく必要がある】

- ・公共交通アンケート調査から明らかになったこととして、公共交通空白地等において少数ではあるものの公共交通の潜在的な需要があり、この需要に対してどのような公共交通を確保していくかが課題です。

【ターゲットを設定してこの輸送を実現する町内公共交通の運行が必要】

- ・平成 29 年度のアンケート調査から明らかになったこととして、通勤・通学、買物、通院・治療等及び飲食・趣味活動等においてバス利用は 1 割以下で、自家用車による移動が多い状況です。
- ・このため町内公共交通は、どのような年齢階層、外出目的等に対して公共交通サービスを提供するのか（ターゲット）を考え、これを実現するためにどのような公共交通を運行していくことが良いかを考える必要があります。

（参考：町内公共交通運行の例）

- ・路線バス、コミュニティバスの運行：市街地など人口密度が比較的に高い地域の輸送に有効
- ・乗合タクシーなどデマンド交通の運行：郊外部など人口密度が比較的に低い地域の輸送に有効
- ・コミュニティバスとデマンド交通の何れかを選択するか、あるいは連携して運行するかについて検討が必要です。

■公共交通アンケート調査等から町内公共交通は何をターゲットとしていくかを考える

○どのような年齢階層を対象に運行していくか

- ・運転免許を持っていない方は、「60～64歳」と「65～74歳」が2割、「75～84歳」が6割弱、「85歳以上」が8割以上（9ページ）
- ・自家用車の使用状況は、「20～39歳」から「65～74歳」まで「自ら所有の車を使用」が5割台から6割台に対し、「75～84歳」と「85歳以上」が「車は使用しない」と「家族が運転する車に乗車」が増加（10ページ）
- ・運転の状態は、「65～74歳」の方において「時々不安を感じる」が増加し、「75～84歳」と「85歳以上」は「運転しない・運転免許なし」が増加（11ページ）
- ・「返納が必要な年齢ではない」を回答の方は、「20～39歳」から「60～64歳」が6割以上に対し、「65～74歳」が4割未満、「75～84歳」が1割未満と減少（12ページ）

○どの地域を対象に運行していくか

- ・バス停留所までの距離は、「1,000m以上」について「沢町」が10割、「豊丘町」が9割以上、「登町」が6割強、「山田町」が6割弱（14ページ）
- ・バス停留所300m未満は、「大川町」が5割強、「黒川町1～16丁目」が4割強、「黒川町17～20丁目」が3割強（14ページ）
- ・鉄道駅やバス停留所まで遠さを感じているかは、「少し不便」と「遠くて不便」の合計について、「沢町」が10割、「登町」と「豊丘町」が8割台、「美園町」と「山田町」が7割台（15ページ）
- ・公共交通の潜在的な需要は以下の地域間移動が多い（30ページ）
 - 「黒川町17～20丁目」と「余市町内」が37人／日
 - 「黒川町1～16丁目」と「余市町内」が33人／日
 - 「大川町」と「余市町内」が18人／日
 - 「黒川町17～20丁目」と「小樽」が17人／日
 - 「栄町」と「余市町内」が16人／日
 - 「美園町」と「余市町内」が16人／日
 その他の地域間においても少ないながら潜在的な需要がある
- ・路線バスの不満や改善点として「自宅からバス停まで遠い（398件）」が最も多く、この傾向が強い地域は「沢町」、「美園町」、「山田町」及び「栄町」（31、32ページ）
- ・余市協会病院線の利用者は・黒川町（22人）、富沢町（21人）、大川町（13人）
黒川町は17～20丁目が7人、大川町は16～19町名が5人（55ページ他）

○どのような外出目的を対象に運行していくか

- ・外出目的は「通勤・通学目的」が5割、他の「買物」、「飲食・趣味活動等」及び「通院・治療」が2割未満（18ページ）
- ・「60～64歳」以上では「買物」、「通院・利用」が多い（18ページ）
- ・潜在的な需要の外出目的は「通勤・通学目的」が5割強、「買物」が2割強、「飲食・趣味活動等」及び「通院・治療」が1割前後（30ページ）
- ・余市協会病院線の利用者の外出目的は、「通院・治療」が4割、「買物」が3割弱、「通勤・通学」が2割（58ページ）

■ターゲットの輸送を実現するためにどのような公共交通を運行していくことが良いかを考える

○今後とも余市協会病院線のような町内公共交通は必要か

- ・以下は余市協会病院線バス乗降調査の結果
- ・9月11日（火）では6便合計で92人が利用（41ページ）
- ・同様に9月20日（木）は114人が利用（48ページ）
- ・利用者の利用頻度は週に数回程度が最も多い（56ページ）
- ・「運行を維持して欲しい」が4割弱、「改善を希望」が6割弱（60ページ）

○町内公共交通は余市協会病院線を広げて考えるか、狭めて考えるか

- ・アンケート調査において連絡が必要な施設は以下のとおり（34、35ページ他）
イオン余市店（202件）、JR余市駅（159件）、余市町役場（118件）、コープさっぽろ余市店（116件）、余市協会病院（92件）、総合体育館（77件）、図書館（72件）、中央公民館（50件）、しまむら余市店（50件）、ケーズデンキ余市店（45件）、その他あゆ場公園パークゴルフ場（10件）
- ・余市協会病院線ヒアリング調査での利用者目的施設は以下のとおり（59ページ）
余市協会病院（35人）、コープさっぽろ余市店（19人）、イオン余市店（9人）、フルーツシャトー余市（6人）、余市整形外科クリニック（4人）、勤医協余市診療所（3人）、ホームック（3人）、よいち北川眼科（3人）
- ・余市協会病院線バス乗降調査において利用が少ない区間は以下のとおり（46、53ページ）
「15. 黒川13丁目」～「20. まほろばの郷」
「11. 大川十字街」～「12. 大川6丁目」
- ・積丹線と余市協会病院線が一部重複運行
- ・余市協会病院線と余市紅志高校スクール便が一部重複運行

○町内公共交通が運行しない空白地域の公共交通はどのように考えるか

- ・「利便性が高い路線バス」、「乗合タクシー」、「コミュニティバス」の順（36ページ）
- ・「利便性が高い路線バス」が多い地域：「大川町」（37ページ、以下同様）
- ・「乗合タクシー」が多い地域：登町、豊丘町
- ・「コミュニティバス」が多い地域：栄町、梅川町

○JRとの接続強化

- ・アンケート調査の路線バスの不満や改善点として「JRとの接続」が7件（31ページのその他意見）
- ・アンケート調査の自由意見として「JRとの接続」が5件（40ページ）

○どのような車両で運行するべきか。

- ・余市協会病院線バス乗降調査における停留所区間最大乗車人数は16人（9月20日 第3便）（54ページの便別往復別細集計）
- ・余市協会病院線バス乗降調査から車両の仕様への意見
「小さくて良い」が10人、「段差を低く」が6人（62ページ）

○その他

- ・運行時間、停留所の待合環境、幹線バス等との乗継ぎはJR余市駅のみで良いか など